

数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)

令和7年度 自己点検・評価報告書

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」については、数理・データサイエンス教育推進委員会が主体となり、リテラシーレベル・モデルカリキュラムに示された学修内容を修得するための3つの授業科目から構成される教育プログラムとして、令和4年度入学生から適用し、令和5年度入学生からは、3科目とも必修としている。

当該プログラムの運用にあたっては、本学の内部質保証プロセスに基づき自己点検・評価を実施し、その結果を以下に報告する。なお、点検・評価に際しては、各授業科目の授業評価アンケート(以下「授業アンケート」)、教育プログラム全体に関するアンケート(以下「全体アンケート」)の結果、さらに各授業科目の成績評価等を参考資料とした。

以下の点検結果の報告の中の括弧内の値は、昨年度の割合を示している。

自己点検・評価の視点	点検結果
学内からの視点	<p>数理・データサイエンス・AI教育推進委員会において、当該プログラムの履修・修得状況の分析を実施しており、今年度の状況は以下のとおりである。また、学内授業支援システム(LMS)の活用により、受講者毎の講義演習進捗状況や課題への回答状況を把握できるようにしている。</p> <p>【総合情報学部】 当該プログラムに該当する3科目はいずれも必修科目であるため、本来であれば履修率は100%となる。しかし、1名が履修を取り消した科目があったことから、結果として履修率は100%に達しなかった。 今年度、3科目すべてに合格した(すなわち当該プログラムを修了した)学生の割合は 88 %であり、昨年度の 90%と比較するとわずかに低下している。しかし、その差は小さく、全体としての修得状況に大きな変化はないと考えられる。 【評価:A】</p> <p>【看護学部】 当該プログラムに該当する3科目はいずれも必修科目であるため、履修率は100%である。このうち、3科目すべてに合格した学生の割合は 100 %となり、昨年度の 95%から向上している。以上より、学生の修得状況は良好であると判断できる。 【評価:A】</p>
学修成果	<p>当該プログラムの履修学生に対して、意欲、興味、関心、理解度等を把握する全体アンケートを実施し、数理・データサイエンス・AI教育推進委員会において分析し、当該プログラムの評価・改善に活用している。 その中の「授業の内容は理解できましたか?」という設問に対し、各学部の回答は次のとおりである。</p> <p>【総合情報学部】 a. 情報社会とAI 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、78%(78%)であった。「③どちらともいえない」を含めると97%(95%)であった。 b. 情報リテラシー演習 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、88%(87%)であった。「③どちらともいえない」を含めると97%(96%)であった。 c. 統計学 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、82%(82%)であった。「③どちらともいえない」を含めると95%(95%)であった。</p> <p>全科目において、「①とてもそう思う」および「②そう思う」と回答した割合は、昨年度と比較して同等以上の水準を示しており、概ねプログラム全体の内容の理解度は高いと思われる。 【評価:B】</p> <p>【看護学部】 a. 情報社会とAI 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、74%(41%)であった。「③どちらともいえない」を含めると93%(69%)であった。 b. 情報リテラシー演習 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、81%(52%)であった。「③どちらともいえない」を含めると92%(73%)であった。 c. 統計学 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、85%(83%)であった。「③どちらともいえない」を含めると100%(93%)であった。</p> <p>全科目において、「①とてもそう思う」ならびに「②そう思う」と回答した割合は、昨年度の値を大きく上回っており、看護学部においても概ねプログラム全体の内容の理解度は高いと思われる。 【評価:B】</p>

自己点検・評価の視点	点検結果
<p>学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度</p>	<p>FD委員会では実施している授業アンケートの集計結果のうち、「学生の授業への取り組み(知識・技術の修得度)」の項目を分析することで、各授業科目における理解度を把握できる体制としている。得られた結果は、当該プログラムの評価および改善に活用している。各学部のアンケート結果は、次のとおりであった。</p> <p>【総合情報学部】 当該プログラムに該当する3科目の授業アンケートにおける「知識・技術の修得度」の平均値は4.24であり、いずれの科目も4ポイント台であったことから、各授業科目における理解度は高いと考えられる。 【評価:A】</p> <p>【看護学部】 当該プログラムに該当する3科目の授業アンケートにおける「知識・技術の修得度」の平均値は4.04であり、概ね高い理解度が得られていると考えられる。しかし、「統計学」については3ポイント台であり、理解度を向上させるための方策が必要である。 【評価:B】</p>
<p>全学的な履修者数、履修率 向上に向けた計画の達成・ 進捗状況</p>	<p>【総合情報学部】 令和5年度より、当該プログラムを構成する3科目全てが必修科目となり、学部学生全員が履修することになる。 【評価:A】</p> <p>【看護学部】 当該プログラムを構成する3つの授業科目は全て必修科目であるため、学部学生全員が履修している。 【評価:A】</p>
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進 路、活躍状況、企業等の評 価</p> <p>産業界からの視点を含めた 教育プログラム内容・手法 等への意見</p>	<p>当該プログラムは令和4年度に開設されたものであり、現時点では卒業生が社会に出ていない状況である。このため、この2項目について、企業等による評価を行うことは現段階ではできない。今後は、数理・データサイエンス・AI教育推進委員会を中心として、当該プログラム修了者の就職先へのヒアリング等の調査を実施し、企業からの評価を把握するための仕組みを整備していく予定である。 【評価:B】</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを 「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」 を理解させること</p>	<p>当該プログラムを構成する科目「情報社会とAI」では、モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分(社会におけるデータ・AIの利活用)に沿った内容を展開している。時事や社会のトレンドなど具体的な事例を用い、AIの活用方法を中心に取り上げることで、学生の興味・関心を喚起する講義内容としている。</p> <p>一方、「統計学」ではデータリテラシー(データを読む・説明する力)、「情報リテラシー演習」ではデータリテラシー(データを扱う力)を、具体例を通じて講義している。</p> <p>講義終了後に実施した全体アンケートの設問「AI・データサイエンスに対する興味・関心が高まりましたか?」に対する各学部の回答は、両学部とも昨年度より評価が向上している。</p> <p>【総合情報学部】 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、83%(78%)であった。「③どちらともいえない」を含めると96%(92%)であった。 【評価:A】</p> <p>【看護学部】 「①とてもそう思う」「②そう思う」と回答した学生は、74%(37%)であった。「③どちらともいえない」を含めると85%(78%)であった。 【評価:B】</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつ つ、より「分かりやすい」授業と すること</p>	<p>当該プログラム全体および各授業科目の理解度について、アンケート結果を見ると高い評価が得られているものの、理解が不十分で不合格となった学生も一定数存在することが窺える。このため、学生の「分かりやすさ」の観点から、講義内容や実施方法の見直しを行った。</p> <p>総合情報学部では、依然として不合格者が一定数存在しており、さらなる改善が必要である。一方、看護学部では全員が合格しており、昨年度からの見直しが成果として表れている。 【評価:B】</p>

自己点検・評価の視点	点検結果
点検評価結果に基づく課題及び改善策等	当該プログラムの履修は、総合情報学部の前年度のカリキュラム改正に合わせ、全学生が必修として履修することになっている。今年度は、前年度の検討結果を踏まえてプログラム内容の見直しを行い、一定の成果が確認された。しかし、低いレベルの評価で合格する学生が多い科目もあることから、学生が高いレベルの評価を取得できるよう、授業実施方法等について一層の工夫が必要である。
根拠資料	①令和7年度 リテラシーレベル授業科目の履修率・合格率 ②令和7年度 リテラシーレベル授業科目の成績評価内訳 ③令和7年度授業評価アンケートの結果による理解度の確認 ④数理・データサイエンス・AI教育プログラムのアンケート集計結果(総合情報1年・看護1年)

点検結果に基づき、次の四段階の評価レベルで評価を行った。

【評価レベル】

- A:『優れた点』があり、十分行われている。
- B:概ね行われており、相応である。
- C:改善の必要がある。
- N:現時点で評価できていない。